



瑞穂区は どんなまち？

デジタル標高
地形図で見て
みましょう！



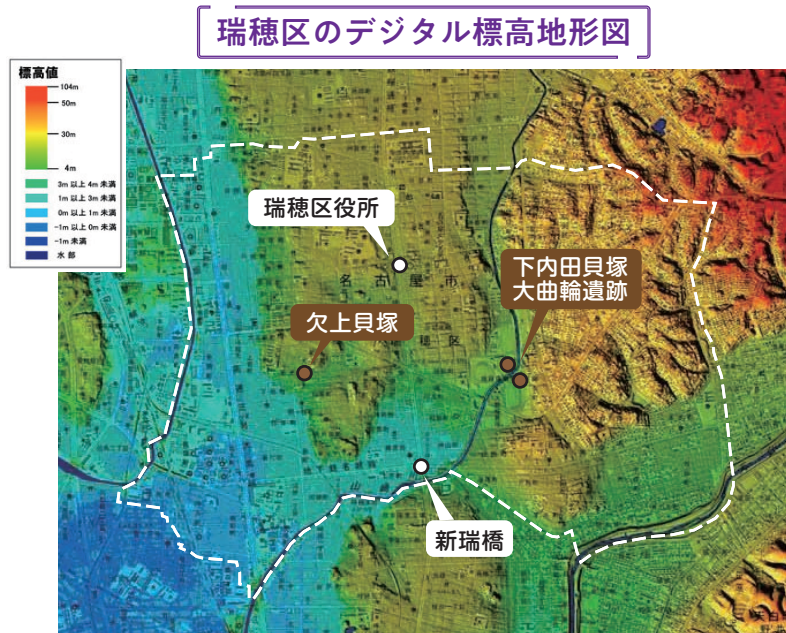
1 地形から見る瑞穂区

名古屋市のほぼ真ん中に位置する瑞穂区は、東側に「八事丘陵」と呼ばれる丘、真ん中は「瑞穂台地」という台地で標高が高くなっています。そして、西に向かってかつて海だった低地が広がっています。

今から数千年前、紀元前の縄文時代の瑞穂区は大曲輪遺跡がある瑞穂運動公園あたりまで海があったとされています。

その後、海岸線が下がって平安時代には、新瑞橋あたりに海岸線があったといわれています。

現在ではさらに続いた地形の変化などでその面影はありませんが、瑞穂区には「塩入町」や「内浜町」などの海の近くであったことに由来した地名が今でも残っています。



出典:国土地理院のデジタル標高地形図に加筆

3 大地震がおきたら、瑞穂区に津波は来るの？

過去の地震や津波の記録では、熱田区まで津波が到達したとされる記録が残されていますが、瑞穂区に津波が到達したという記録は確認できません。

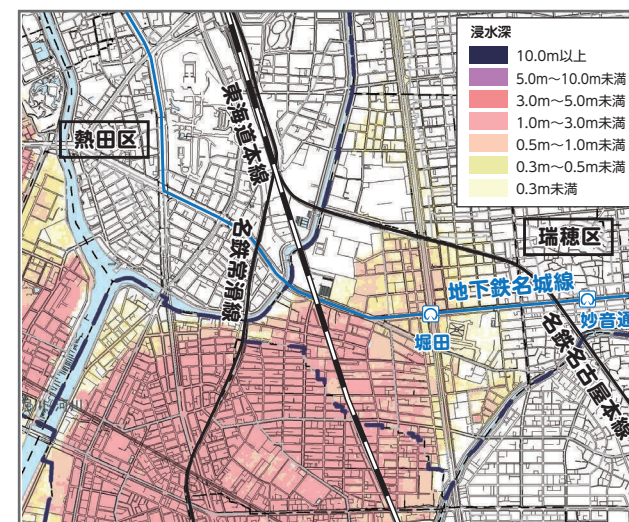
しかし、過去の記録では「堀川まで津波が遡上した」という記録があることや、市内の標高の高低差などを考えると、標高が低い瑞穂区の西側の地域では、大規模な地震が発生した際には、現在の津波ハザードマップが示すように、津波による浸水の可能性がありますので、津波による浸水を想定した備えをする必要があります。

過去に名古屋市に津波が到達した可能性のある地震

1096年	嘉保地震
1498年	明応地震
1605年	慶長地震
1707年	宝永地震
1854年	安政東海地震

「熱田海甚だ潮高く進退不常。新屋川迄潮来る」という記録が残されています。

「熱田の海岸に高潮起こり、神戸町へ海水侵入、堀川へも汐差込み、材木、ひさしのこわれなど流れ逆流。堀川でも濁流山の如く上がる」という記録があります。



出典:名古屋市津波ハザードマップに加筆



瑞穂区
マスコットキャラクター
みずほっぺ

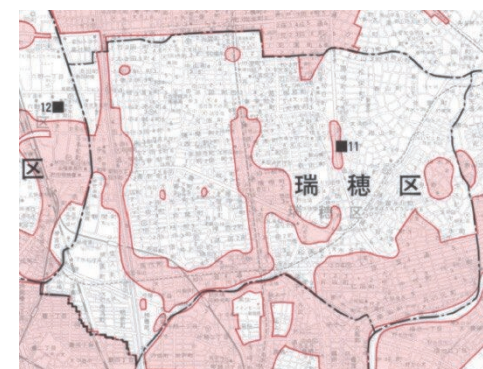
2 近年、瑞穂区で被害があった災害

【風水害】

平成 12 年 9 月東海豪雨

平成12年(2000年)9月11日から12日にかけて東海地方を襲った集中豪雨により、瑞穂区では中根・井戸田・高田学区を中心に、床上浸水485棟、床下浸水1,427棟の被害が発生しました。

東海豪雨の浸水範囲



平成 16 年 9 月の集中豪雨

平成16年(2004年)9月に起きた集中豪雨では、市内で床上浸水250棟、床下浸水1,584棟の被害が発生しました。そのうち、約8割の被害が瑞穂区で発生するという局所的な集中豪雨となりました。

平成16年(2004年)9月の
集中豪雨の浸水範囲

